第一学年「バスケットボール」単位時間の指導過程（１３時間）

|  |  |
| --- | --- |
| 知識及び技能 | ＤＦに囲まれる前に，早く広がって早くパスをつなぎ，早くシュートを打つゲームができる。 |
| 思考力，判断力表現力等 | ゲームの結果や様子から，どのようにしたらグループや自己の課題を解決できるかを考え，そのための練習計画や作戦を工夫し，試合に生かすことができる。 |
| 学びに向かう力人間性等 | 課題の解決に向かって，粘り強く教え合い，励まし合って互いの頑張りを認め合える仲間になる。 |

オリエンテーション（１/１３時間）

1. ねらい

バスケットボールの特性を理解し，学習の見通しをもつことができる。【知識】

1. 展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計画 | １　全体会

|  |
| --- |
| バスケットボールの特性，単元計画，学習方法を理解しよう。 |
| まとまって活動できる仲間になろう。 |

・バスケットボールの特性を理解する。・バスケットボールの単元の目指す姿と学び方を理解する。・単元の流れを理解する。・バスケットボールの授業の約束を理解する。 | ・ICT機器を使い，映像で目指す姿を明確に理解させる。・できばえを確かめ合ったり，互いに問いかけたりしながら学習し，全員が動きについて理解できるようにすることが大切であることを捉えさせる。 |
| 展開 | ２　グループ決め３　グループ会（学習カードへの記入をさせる。）・役割を決める。・きまりを決める。・目指す仲間の姿を決める。４　W-upの仕方を知る |

|  |
| --- |
| 評価規準【知識】・バスケットボールの特性，単　　元目標，学習方法を理解し，ノートに記入している。 |

 |
| 評価 | ５　全体会・各グループの目指す仲間の姿を発表する。 |  |

試しのゲーム（２/１３時間）

（１）ねらい

試しゲームを行い，自分たちのグループの課題を捉えることができる。【思考・判断・表現】

1. 展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計画 | １　全体会

|  |
| --- |
| 試しのゲームから自分たちのグループ課題をみつけよう。 |
| リーダーの指示に従い，素早い行動で活動できる仲間になろう。 |

・試しのゲームの仕方を確認する。・バスケットボールのルール・ファールの確認をする。　ドリブルなし　５分ゲーム，３分作戦タイム　トラベリングはサイドラインから，相手ボールスタート　ヘルドボールはジャンプボール・審判は，ゲームをしないグループ　審判は，「笛→ファール名→〇〇ボール」とコールする | ・授業前に，試しのゲームのルールと審判の仕方をリーダーに事前指導する。１時間で見つけたグループ課題を書き残す役割をPOに事前指導する。学び方につながる１０秒駆け足集合をMOに徹底させるよう事前指導を行う。・ＩＣＴ機器を使って，トラベリングの解説動画を見せる。・試合の中でよく起こりうるトラベリングをモデル化して解説する。・明らかな反則のみ審判（自己申告）に取らせるが，危険なプレーは，すかさず教師が止める。 |
| 展開 | ２　試しのゲームＡvsＢ　（Ｃ） ＤvsＥ　（Ｆ）ＦvsＡ　（Ｂ） ＣvsＤ　（Ｅ）ＥvsＦ　（Ａ） ＢvsＣ　（Ｄ） | ・１試合毎に必ず３分間の作戦タイムをとり，課題を言い合わせ，短冊に書き残させる。・作戦会を回り，パスがつながらない原因の様相，固まる様相を確認する。・試合内で起こった危険なプレーは，次の試合に入る前に確認する。

|  |
| --- |
| 評価規準【思考・判断・表現】・グループの課題を共有し，自分の課題を捉えている。 |

 |
| 評価 | ３　グループ反省会ボールに固まるパスが繋がらない散らばってほしい前に人がいれば…・グループの課題を洗い出す。・個人の課題を洗い出す。４　全体会・各グループの課題を発表させ，次時からの学習方法を理解する。 | ・次時からの課題となる短冊を確認し，固まっている様相に気づかせる。・グループ課題の解決のために，個人課題をもって練習やゲームをしていくことが大切になることを捉えさせる。・本時の学び方について，良いグループを紹介して価値づける。 |

第１ユニット指導案（３/１３）

（１）ねらい

ゲームに生きる基本的な技能（チェストパス，バウンズパス，もらい足，ピボット，セットシュート）の仕方と，制限付きゲームの方法が理解できる。【知識】

1. 展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計　画 | １　全体会

|  |
| --- |
| ゲームに生きるW－upの仕方と制限付きゲームの方法を知ろう。 |
| わからない人から質問が出し合える仲間になろう。 |

　　　　　 | ・教えるのではなく，わからないことを尋ねる関わり方をするよう，リーダーやPOに事前指導する。駆け足集合を続けながら，体育館の安全な環境作りに気を配るようMOに事前指導する。・本時の学び方について，「どんな声が上がると良いか」を確認する。 |
| 展開 | ２　W－upの仕方を確認する1. ゴール下シュート

・パスを受ける際は，つま先をゴールに向ける（もらい足）1. 三角ピボット

・ボールは相手から遠いところで保持する1. 対面パス

・パスをもらうと時，ターゲットを示す「手をあげ『はい』」・パスするキャッチする際は，足先を味方に向ける（もらい足）・味方の胸に向かってパスをし，パスをしたらすぐに走り出す。３　制限ゲームの方法を理解する。・チームで「攻め役」「つなぎ役」「取り役」を決めながら，制限付きゲームの方法を理解していく。攻め役：シュートが入る人，キャッチができる人，すぐ前に走れる人つなぎ役：体力がある人，一番ボール操作が上手い人取り役：すぐゴール下に戻れる人，背が高い人，遠くへ投げられる人ＡvsＣ　（Ｂ） ＤvsＦ　（Ｅ）ＢvsＤ　（Ａ） ＣvsＥ　（Ｆ） | ・教師が師範を示しながら，１つ１つのポイントを示し，グループで練習させる。・ポイントとなる声やよりよい学び合いに向かう声が，グループ内で出ているチームを認め，その価値を広めていく。

|  |
| --- |
| 評価規準【知識】・パス，ピボット，ゴール下シュートのポイントを理解している。 |

・制限ゲームのルールをコート図で確認し，２チームを実際に動かす中で確認すると同時に，空いたスペースを見つけやすいことをイメージさせる。

|  |
| --- |
| 評価規準【知識】・制限付きゲームの方法について理解している。 |

 |
| 評価 | ４　グループ反省会・次時に行う「制限ゲーム」に向けて，作戦を考える。５　全体会・各グループの課題を発表させ，次時からの学習方法を理解する。 | ・試合の様相から，パスがスムーズに回らなかったグループを回り，次時からの課題に気づかせる。・本時の学び方について，良いグループを紹介して価値づける。 |

第１ユニット指導案（４/１３）

（１）ねらい

ボール保持者以外は，ボール保持者と自分の間に相手がいない場所に動き，ボール保持者は，その人を見つけパスをすることが，固まらずボールをつなぐことになることに気づく。

【思考・判断・表現】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計　画 | １　W－up　ゴール下シュート，ピボット，対面パス２　全体会

|  |
| --- |
| スムーズにボールをつなぐには，どんな動きをしたらいいのだろう。 |
| 作戦版を使って，自分のマークを動かしたり，提案や質問が飛び交ったりする作戦会をしよう。 |

　　　　　３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・課題に対してグループで作戦を考える。　ボールを保持したら「どこに動いて」「何をするか」を視点に　意見を出す。 | ・ゴール下シュート　もらいながらゴールにつま先を向ける（もらい足）ようサイドコーチを行う。もらう時の，アピールボイスを出させる。・ピボット　相手の遠くでボールを保持するようサイドコーチを行う。・対面パス　パスしたらすぐにダッシュを徹底させるようなサイドコーチを行う。もらう時の，アピールボイスを出させる。・ＩＣＴを使って，作戦タイムの様子を見せ，イメージをつかませる。・グループの作戦時に，どう動くか，自分の磁石を使わせ，必ず参加するよう巡視，指導する。 |
| 展開 | ４　制限ゲーム・３分行い，作戦タイム２分　×３ＡvsＥ　（Ｃ） 　ＢvsＦ　（Ｄ）・中間研究会で，あるチームの発見を全体へ広める。「どこへ動いたら，パスがもらえたの？」「ボール保持者と自分の間に相手がいない場所にいけばもらえた」・後半：各チーム，ゲームで実践し有効性を実感する。ＡvsＤ　（Ｂ）　 ＣvsＦ　（Ｅ）ＢvsＥ　（Ａ）　 ＣvsＤ　（Ｆ） | ・1試合目に，ボールがスムーズにつながっているグループを捉え，グループ会で考えをつかみ，広める。・作戦ホワイトボードやコート上で確認しながら練習を進めさせる。

|  |
| --- |
| 評価規準【思考・判断・表現】・ボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動くことがボールをつなぐことだと考えている。 |

 |
| 評　　　価 | ５　グループ反省会・課題に対してゲームを振り返り，グループとしての考えをまとめる。６　全体会・課題に対しての考えを各グループ発表する | ・自分たちで「ボール保持者と自分の間に相手がいない場所に動くことがボールをつなぐことだ」と考えを見つけられたことを褒める。・全員参加で行っている作戦会等の様子とゲームの上達の関係について，モデルとなるグループや場面について紹介する。 |

第１ユニット指導案（５/１３）

（１）ねらい

味方ボールになったら，ボール保持者と自分の間に相手がいない場所に動き，ボール保持者は，その人を見つけパスをつないで攻めることができる。【技能】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計　画 | １　W－up　ゴール下シュート，ピボット，三角パス２　全体会

|  |
| --- |
| 味方ボールになったら，ボール保持者と自分の間に相手がいない場所に動き，ボール保持者は，その人を見つけパスをつなごう。 |
| 課題を解決するための声を出し合える仲間になろう。 |

≪ボール非保持者≫ボール保持者と自分の間に相手がいない場所へ移動する。３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・課題に対してグループで動きを確認する。ボールを保持したら，ボール保持者と自分の間に相手がいない場所に動くことを，自分磁石を使って確認する。・本時どんな声を出すか，作戦を立てる。 | ・三角パスとゴール下シュート　もらい足と「はい」の声出しについて徹底させるようなサイドコーチを行う・「対面」を「三角」にすることで，もらい足とつま先の向きが大切になると確認する。・ピボット　ピボットは相手が密接した時に有効であることを確認し，ボールの位置と，体を入れてピボットを行うようサイドコーチを行う。・前時，うまく動けなかった生徒のグループで，その子の自分磁石の動きを確認しながら指導していく。 |
| 展開 | ４　制限付き５対２の練習(相手DF：ハーフコートに1人ずつ)・シュートしたボールを保持した時点からの攻撃する練習をする。・DFは，フロント，バックコートに各１名（相手チームに依頼）・１回の攻撃後，グループで振り返りながら練習する。５　制限ゲーム・３分行い，作戦タイム２分　×２・うまく動けない仲間に注目し，味方がボール保持した時，つなげられる場所に動けたか，確認する。ＦvsＡ（Ｂ） ＥvsＣ（Ｄ）　　ＡvsＢ（Ｃ） ＤvsＥ（Ｆ） | ・練習の仕方，サイドコーチで指導を行った上で，ボールがつながらない位置に止まっていた場合，ゲームをストップし確認させる。・指示から，動けた，動こうとした生徒には認めの声掛けをしていく。

|  |
| --- |
| 評価規準【技能】・ボール保持者と自分の間に相手がいない場所に動くことができる。 |

 |
| 評　　　価 | ６　グループ反省会・チームの勝利のために，自分の動きを振り返って，個人課題を明確にする。・わからないままにしておかなかったか，うまくいったことを認める声を掛けた事実があったか振り返る。７　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時への課題をもつ。　　課題　相手に囲まれると，山なりパスになってしまう。山なりのパスはとられる。　　　　　１回はうまくいっても，その後が繋がらない。 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・うまくいかないチームの課題として相手に囲まれてしまうという課題を引き出す。・グループの学び方についても意見を出させ，協力し合う姿勢について価値づける。 |

第２ユニット指導案（６/１３）

（１）ねらい

味方ボールをなったら，自分(ボール保持者)と味方の間に相手がいない場所にいる味方を見つけ，囲まれる前にすばやくパスをつないでシュートことができる。【技能】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計　画 | １　W－up　ゴール下シュート，ピボット，三角パス２　全体会

|  |
| --- |
| 味方ボールになったら，自分と味方の間に相手がいない場所にいる味方を見つけ，囲まれる前にすばやくパスをつないでシュートを打とう。 |
| 課題を解決するための声をグループで決め，必ずグループ全員が声を出そう。 |

≪ボール保持者≫　　　　　　≪ボール非保持者≫もらった瞬間に前を向く　　　間に相手がいない場所へ移動３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスを出すために，意識することを確認する。・「この声を絶対出そう」という作戦を考える。 | ・W-upは試合につながる技能であること，本時の練習では，バックコートのDF人数を増やしてもよいことを，授業前にリーダーと確認する。・ゴール下シュート，三角パスもらってからつま先を向けていたら遅い。とる瞬間のもらい足を徹底させるようなサイドコーチを行う。・ピボット　対面で行っているグループにもらい手がDFと被らない位置へ移動するよう指導する。・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。 |
| 展開 | ４　制限付き５対２～３の練習(ハーフコートに１人ずつ)・シュートしたボールを保持した時点からの攻撃する練習をする。・DFは，フロント，バックコートに各１名（相手チームに依頼）※実態に応じて，バックコートに２人ＤＦを置いてもよい。・１回の攻撃後，グループで振り返りながら練習する。５　制限ゲーム・３分行い，作戦タイム２分　×３・うまく動けない仲間に注目し，味方がボール保持した時，つなげられる場所に動けたか，確認する。ＤvsＦ（Ａ） ＢvsＣ（Ｅ）ＡvsＣ（Ｄ） ＢvsＥ（Ｆ）ＤvsＡ（Ｂ） ＥvsＦ（Ｃ） | ・練習の仕方，サイドコーチで指導を行った上で，ボールがつながらない位置に止まっていた場合，ゲームをストップし確認させる。・指示から，動けた，動こうとした生徒には認めの声掛けをしていく。

|  |
| --- |
| 評価規準【技能】・ボール保持者は，相手がいない場所に動こうとしている人を早く見つけ，囲まれる前にすばやくパスができる。 |

 |
| 評　　　価 | ６　グループ反省会・チームの勝利のために，自分の動きを振り返り，個人課題を明確にする。・課題解決のためのコート中での声やサイドコーチの声の事実があったか振り返る。７　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時への課題をもつ。　 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・うまくいかないチームの課題としてパスを出す人の動きについても課題を引き出す。・グループの学び方についても意見を出させ，協力し合う姿勢について価値づける。 |

第２ユニット指導案（７/１３）

（１）ねらい

味方ボールになったら，自分(ボール保持者)と味方の間に相手がいない場所にいる味方を見つけ,相手に囲まれる前にすばやく動いてパスをつないでシュートことができる。【技能】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計　画 | １　W－up　三角パス，ピボット，ゴール下シュート２　全体会

|  |
| --- |
| 味方ボールになったら，相手に囲まれる前にボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動いてパスをもらって攻めよう。 |
| 課題を解決するための声をグループで決め，必ずグループ全員が声を出そう。 |

≪ボール保持者≫　　　　　≪ボール非保持者≫もらった瞬間に前を向く　 パスを出したらボールを追い越して走る３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスが出せ，つながるための作戦を考える。 | ・三角パス　パスしたらすぐにダッシュを徹底させるようなサイドコーチを行う・ピボット　足を出した瞬間にパスができるようサイドコーチを行う。・ゴール下シュート　パスの位置を前に出させ（未来のパス），そこへもらいに入り,止まってシュートするようサイドコーチを行う。・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。 |
| 展開 | ４　制限付き５対３～４の練習(ハーフコートに２人ずつ)・シュートしたボールを保持した時点からの攻撃する練習をする。・DFは，フロント，バックコートに各２名（相手チームに依頼）・１回の攻撃後，グループで振り返りながら練習する。５　制限ゲーム・３分行い，作戦タイム２分　×２・うまく動けない仲間に注目し，味方がボール保持した時，パスをつなげられたか，確認する。 | ・練習中やゲーム中に課題達成の声が出せるよう教師がサイドコーチを行ったり，コート内やサイドからの声掛けのよさを認めたりしながら巡視する。・ボールがつながらない位置に止まっていた場合，ゲームをストップし確認させる。

|  |
| --- |
| 評価規準【技能】・パスを出した後,ボール保持者を追い越して走り，ボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動いてパスをつなぐことができる。 |

 |
| 評　　　価 | ６　グループ反省会・チームの勝利のために，ゲーム記録を参考にしたり，自分の動きを振り返ったりして，個人課題を明確にする。・課題解決のためのコート中での声やサイドコーチの声の事実があったか振り返る。７　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時への課題をもつ。 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・グループの学び方についても意見を出させ，協力し合う姿勢について価値づける。・自分たちで考えた動きのポイントを確認し，次時から制限なしのゲームに入ることを伝える。 |

第３ユニット指導案（８/１３）

（１）ねらい

味方ボールになったら，自分(ボール保持者)と味方の間に相手がいない場所にいる味方を見つけ,相手に囲まれる前にすばやく動いてパスをつないで早くシュートことができる。【技能】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計　画 | １　W－up　三角パス，ピボット，ゴール下シュート２　全体会

|  |
| --- |
| 味方ボールになったら，相手に囲まれる前にボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動いてパスをもらって攻めよう。 |
| 課題を解決するための声をグループで決め，必ずグループ全員が声を出そう。 |

≪ボール保持者≫　　　　　　≪ボール非保持者≫もらった瞬間に前を向く　　　パスした後ボールを追い越すゴール下へロングパスを狙う　 攻め役はゴール下へ走る３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスが出せ，つながるための作戦を考える。 | ・三角パス　パスしたらすぐにダッシュを徹底させるようなサイドコーチを行う・ピボット　足を出した瞬間にパスができるようサイドコーチを行う。・ゴール下シュート　パスの位置を前に出させ（未来のパス），そこへもらいに入り,止まってシュートするようサイドコーチを行う。・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。 |
| 展開 | ４　制限付き５対４の練習(ハーフコートに２人ずつ)・シュートしたボールを保持した時点からの攻撃する練習をする。・DFは，フロント，バックコートに各２名（相手チームに依頼）・１回の攻撃後，グループで振り返りながら練習する。５　制限ゲーム・３分行い，作戦タイム２分　×２・うまく動けない仲間に注目し，味方がボール保持した時，パスをつなげられたか，確認する。 | ・練習中やゲーム中に課題達成の声が出せるよう教師がサイドコーチを行ったり，コート内やサイドからの声掛けのよさを認めたりしながら巡視する。・ボールがつながらない位置に止まっていた場合，ゲームをストップし確認させる。

|  |
| --- |
| 評価規準【技能】・味方ボールになったら,ボール保持者と自分の間に相手がいない場所やゴール下にすばやく動いてパスをつなぎ，早くシュートを打つことができる。 |

 |
| 評　　　価 | ６　グループ反省会・チームの勝利のために，ゲーム記録を参考にしたり，自分の動きを振り返ったりして，個人課題を明確にする。・課題解決のためのコート中での声やサイドコーチの声の事実があったか振り返る。７　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時への課題をもつ。 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・グループの学び方についても意見を出させ，協力し合う姿勢について価値づける。・自分たちで考えた動きのポイントを確認し，次時から制限なしのゲームに入ることを伝える。 |

第３ユニット指導案（９/１３）本時案

（１）ねらい

　　味方ボールになったら，相手に囲まれる前にボール保持者と自分の間に相手がいない場所に素早く動き，ボール保持者はその人を見つけ，すばやくパスをつないですばやくシュートすることができる。【技能】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計画 | １　W－up　ゴール下シュート，ピボット，三角パス　制限付き５対３～４の練習２　全体会

|  |
| --- |
| 普通のゲームでも，相手に囲まれる前に早く広がったり，早くつないだりして，早くシュートをするゲームをしよう。 |
| 勝利のための声を，グループ全員で出し合える仲間になろう。 |

３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスが出せ，スムーズにつながるための動き方，作戦を考える。・「この声を絶対出そう」という作戦を考える。 | ・W‐upの動きが試合に生かせるように，試合と基本技能をつなげながらサイドコーチを行う。【研究内容Ⅱ】・前時までの練習をW-upに盛り込み，５対５をイメージした動き方の確認を行う。【研究内容Ⅱ】・サイドコーチで指導・助言を行った上で，ボールがつながらない位置に止まっていた場合，ゲームをストップし確認させる。【研究内容Ⅲ】・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。【研究内容Ⅲ】 |
| 展開 | ４　ゲーム・ゲーム前に２分間の作戦タイムを位置づける。・３分－２分-３分-２分-３分　ＡvsＤ（Ｂ） ＥvsＦ（Ｃ）ＡvsＢ（Ｄ） ＣvsＥ（Ｆ）ＣvsＤ（Ａ） ＢvsＦ（Ｅ）・毎回ゲーム後，グループでの振り返りを行う。 | ・助言・サイドコーチを行いながら，必要に応じて，中間研究会を位置づける。【研究内容Ⅱ】・指示から，動けた，動こうとした生徒には認めの声掛けをし，グループに広めていく。　　　【研究内容Ⅲ】

|  |
| --- |
| 評価規準【技能】・パスを出した後,ボール保持者を追い越して走り，ボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動いてパスをつなぐことができる。・味方ボールになったら,ボール保持者と自分の間に相手がいない場所やゴール下にすばやく動いてパスをつなぎ，早くシュートを打つことができる。 |

 |
| 評価 | ５　グループ反省会・チームの勝利のために，自分の動きを振り返り，個人課題を明確にする。・課題解決のためのコート中での声やサイドコーチの声の事実があったか振り返る。６　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時の課題をもつ。 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・プレー中のサイドコーチやアドバイスができていたグループの学び方を価値づけ，紹介する。・グループの学び方についても意見を出させ，協力し合う姿勢について価値づける。 |

第３ユニット指導案（１０／１３）

（１）ねらい

　　これまでのゲームの結果や様子から，どのようにしたらグループや自己の課題を解決できるかを考え，そのための練習計画や作戦を工夫し，試合に生かそうとしている。【思考・判断・表現】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計画 | １　W－up　ゴール下シュート，ピボット，三角パス２　全体会

|  |
| --- |
| グループ課題に合わせた練習と作戦を工夫し，試合に生かそう。 |
| 勝利のための声を，グループ全員で出し合える仲間になろう。 |

３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスが出せ，スムーズにつながるための動き方，作戦を考える。・「この声を絶対出そう」という作戦を考える。 | ・W‐upの動きが試合に生かせるように，試合と基本技能をつなげながらサイドコーチを行う。・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。 |
| 展開 | ４　５対〇の練習・シュートしたボールを保持した時点から攻撃する練習をする。・DFの人数や動ける範囲は，チームの実態に合わせて選択する（相手チームに依頼）・１回の攻撃後，グループで振り返りながら練習する。５　ゲーム・３分行い，作戦タイム２分　×３・うまく動けない仲間に注目し，自分がボール保持した時，パスをつなげられたか，記録する。 | ・グループの実態に合わせた練習ができるように，助言・最後コーチを行う。・練習の仕方，サイドコーチで指導を行った上で，ボールがつながらない位置に止まっていた場合，ゲームをストップし確認させる。・指示から，動けた，動こうとした生徒には認めの声掛けをしていく。

|  |
| --- |
| 評価規準【思考・判断・表現】グループ課題に合わせた練習と作戦を工夫し，試合に生かしている。 |

 |
| 評価 | ６　グループ反省会・チームの勝利のために，自分の動きを振り返り，個人課題を明確にする。・課題解決のためのコート中での声やサイドコーチの声の事実があったか振り返る。７　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時への課題をもつ。 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・プレー中のサイドコーチやアドバイスの声掛けができていたグループの学び方を価値づけ，紹介する。・グループの学び方についても意見を出させ，協力し合う姿勢について価値づける。 |

リーグ戦指導案（１１/１３）（１２/１３）

（１）ねらい

味方ボールになったら，相手に囲まれる前にボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動いたり，ボール保持者は，その人を見つけすばやくパスをつないだりしようと考えて動こうとしている。【思考・判断・表現】

（２）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計画 | １　W－up　ゴール下シュート，ピボット，三角パス　５対○の練習２　全体会

|  |
| --- |
| どのようにしたら，相手に囲まれる前に早く広がって，早くパスをつないで，早くシュートするゲームができるだろうか。 |
| 勝利のための声を，グループ全員で出し合える仲間になろう。 |

　　　　　３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスが出せ，スムーズにつながるための動き方，作戦を考える。 | ・グループの実態に合わせた練習ができるように，助言・最後コーチを行う。・練習中やゲーム中に課題達成の声が出せるよう教師がサイドコーチを行ったり，コート内やサイドからの声掛けのよさを認めたりしながら巡視する。・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。 |
| 展開 | ４　ゲーム・５分行い，作戦タイム２分　×３・うまく動けない仲間に注目し，自分がボール保持した時，パスをつなげられたか，記録する。 | ・ゲーム中に課題達成の声が出せるよう教師がサイドコーチを行ったり，コート内やサイドからの声掛けのよさを認めたりしながら巡視する。

|  |
| --- |
| 評価規準【思考・判断・表現】相手に囲まれる前にボール保持者と自分の間に相手がいない場所にすばやく動いたり，ボール保持者は，その人を見つけすばやくパスをつないだりしようと考えて動こうとしている。 |

 |
| 評価 | ６　グループ反省会・チームの勝利のために，ゲーム記録を参考にしたり，自分の動きを振り返ったりして，個人課題を明確にする。・課題解決のためのコート中での声やサイドコーチの声の事実があったか振り返る。７　全体会・本時の成果を振り返り，成果を実感し，次時への課題をもつ。 | ・勝った（うまくいった）チームから，成果の要因を引き出す。・グループの学び方についても意見を出させ，協力姿勢について価値づける。 |

単元の振り返り指導案（１３/１３）

1. ねらい

リーグ戦の結果や課題の達成ぶりから，目指す姿になれたかどうかを振り返ることができる。

【態度】

1. 展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導援助・評価 |
| 計画 | １　W－upゴール下シュート，ピボット, 三角パス２　全体会

|  |
| --- |
| グループの伸びや仲間の成長を確かめ合いながらバスケットボール学習のまとめをしよう。 |

　　　　　３　グループ計画会　※別紙【思考の流れ図】参照・相手に囲まれる前にパスが出せ，スムーズにつながるための動き方，作戦を考える。 | ・個人課題を事前に把握し，助言する。苦手な生徒の個人課題がグループの作戦達成につながるものかを確認する。 |
| 展開 | ４　ゲーム・５分行い，作戦タイム２分　×２・うまく動けない仲間に注目し，自分がボール保持した時，パスをつなげられたか，記録する。５　単元のまとめ・振り返りシートの記入・個人課題の達成度を見つめる。・グループ課題の達成度を振り返り，確かめ合う。 |

|  |
| --- |
| 評価規準【態度】リーグ戦の結果や課題の達成ぶりから，目指す姿になれたかどうかを振り返り，ノートに記入している。 |

 |
| 評価 | ６　全体会・各グループの目指す仲間の達成度を発表する。 |  |